

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	2・東書	第1, 2学年	生活・117 生活・118	ときどき わくわく 新編 あたらしい せいかつ 上 あしたへ ジャンプ 新編 新しい 生活 下	
内容の構成・ 排列, 分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の構成・排列については、次のような工夫がなされている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学年への期待を高める「つながるひろがる」を設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> </li> <li>○ 内容の分量については、18の単元で構成され、総ページ数は252ページで、前回より約4%減となっている。(判型はA4判)</li> </ul>				
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見開きでダイナミックな活動写真を掲載したり(全学年)、伝承遊びや、草花遊び、伝統行事などを掲載したり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○ 単元の扉ページに小写真と児童のつぶやき例の吹き出しを掲載したり(全学年)、多様な表現方法の例を掲載したり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</li> <li>○ 児童の読みやすさに配慮して教科書・教材専用のユニバーサルデザインフォントを使用したり(全学年)、配色及びデザインについて、専門家による検証を行ったり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、画像や動画のデジタルコンテンツを活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>				

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「ふゆをたのしもう」で雪や氷を使った遊びや冬の校庭の様子が扱われている。また、下巻の「みんなでつかうまちのしせつ」で図書館（札幌市）と「かつどうべんりてちょう」で路面電車（函館市）が扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、パソコン、タブレット端末、大型モニタ、デジタルカメラなどのICT機器の有効な活用例が示されている。また、上巻末に設けられた「かつどうべんりてちょう」においてタブレット端末の使い方や留意点が紹介されるなど、使用上の便宜が図られている。</li> <li>○ 幼保小連携については、上巻巻頭の「どきどきわくわく1ねんせい」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されるなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、幼児期の教育との円滑な接続に向け「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されている主な例を写真とイラスト、保護者向けメッセージで示す工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、「学びをふかめる」において、気付きを関連付けたり、視点を変えて捉え直したりするなどの具体例が示されている。また、下巻末に設けられた「かつどうべんりてちょう」では、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」などの多様な学習活動を示すなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、キャラクターの姿や多様な表現方法により、友達と交流し、伝え合う活動の具体例が示されている。また、下巻末に設けられた「かつどうべんりてちょう」では、新聞やパンフレットなどの様々な方法を示したり、コンピューターを使った表現活動を示したりするなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		4・大日本	第1, 2学年	生活・119 生活・120	新版 たのしいせいかつ 上 だいすき 新班 たのしいせいかつ 下 ひろがれ
内容の構成・ 排列, 分量等					<p>○ 学校の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合科的・関連的指導が効果的な箇所につながりが分かるマークを設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については、10の単元で構成され、総ページ数は268ページで、前回より約5%減となっている。(判型はA4判)</p>
使用上の配慮等					<p>○ 児童の目線に立ったダイナミックで躍動感のある活動写真やイラストを掲載したり(全学年)、昔遊び、地域の行事、日本固有の風物詩や行事などを取り上げたり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 児童の思いや願いを挿絵や吹き出しで掲載したり(全学年)、活動の視点を示唆するビンゴカードを掲載したり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 特別支援教育に配慮してユニバーサルデザインフォントを使用したり(全学年)、色覚の特性によらず情報が読み取れるよう配色に配慮したり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、画像や動画のデジタルコンテンツを活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</p>

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「ふゆだいすき」で雪や氷を使った遊びや雪道での登下校の様子、冬の公園で遊ぶ様子が扱われている。また、上巻の「せいかつことば」で初雪や粉雪など雪の名前が扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、パソコン、タブレット端末、大型モニタなどのICT機器の有効な活用例が示されている。下巻末に設けられた「がくしゅうどうぐばこ」において、インターネットを活用した、遠隔形式による交流の仕方が示されている。</li> <li>○ 幼保小連携については、上巻巻頭の「たのしいよ1ねんせい」において、入学式後の3日間の過ごし方の例が示されたり、「みんななかよし」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されたりするなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、幼児期の教育との円滑な接続に向け、二次元コードで保護者向けメッセージを掲載する工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、上巻の「やってみようせいかつか」や「まなびかためいじんかんさつめいじん」、下巻「やってみよう生活科」において、イラストや吹き出し、先生からのアドバイスにより「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動が示されている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、生活科カード、紙芝居、ポスター、地図、動画など多様な表現方法が示されている。また、下巻末に設けられた「がくしゅうどうぐばこ」において、タブレット端末を活用した発表、伝え方や聞き方のポイント、伝えたい内容等に応じた多様な発表形式などを示すなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		11・学図		第1, 2学年	生活・121 生活・122
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等					<p>○ 学校、家庭及び地域の生活に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で見付けたことをカードに表したり、町で働いている人を調べ、伝えたりする活動を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える活動</li> </ul> <p>○ 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサガオを育て、日記にまとめたり、動くおもちゃを製作したりする活動を通して、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくする活動</li> </ul> <p>○ 自分自身の生活や成長に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の仕事をしてみたり、自分の成長を調べて、伝えたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、キャラクターによる単元のストーリーを活用して、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考える活動</li> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、「学び方図かん」を活用して「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行う活動</li> </ul>
内容の構成・ 排列、 分量等					<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年への期待を高めるページを設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については、14の単元で構成され、総ページ数は272ページで、前回より約6%増となっている。(判型はA4変判)</p>
使用上の配慮等					<p>○ 児童の活動など臨場感あふれる写真を掲載したり(全学年)、手に入れやすい身近な素材や教具を取り上げたり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 単元の導入で自分の思いや願いをもたせる言葉を掲載したり(全学年)、単元の終末に「もっと○○したい」を掲載したり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 読みやすく、児童が理解しやすい文字になるようユニバーサルデザインフォントを使用したり(全学年)、目に優しく判別しやすい色づかいにしたり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、資料や動画のデジタルコンテンツを活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</p>

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「ふゆをたのしもう」で雪や氷を使った遊びや白鳥のいる冬景色、そり遊びの様子、氷づくりが扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、パソコン、タブレット端末、大型モニタ、デジタルカメラなどのICT機器の有効な活用例が示されている。また、下巻末に設けられた「生活科学び方図かん」では、タブレット端末、パソコン、デジタルカメラなどの使い方や留意点が紹介されている。</li> <li>○ 幼保小連携については、上巻巻頭の「はじまるよしょうがっこう」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されるなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、上巻に設けられた「ものしりのうとーみんなであそぼう」において、集団で楽しめる遊びを紹介するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、上下巻末に設けられた「生活科学び方図かん」において、気付きにつながる視覚や聴覚、触覚、嗅覚などの諸感覚を働かせた学習活動が示されるとともに、気付きの質を高める「比べる」、「たとえる」、「予想する」、「工夫する」などの多様な学習活動が示されている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、上下巻末に設けられた「生活科学び方図かん」において、見付けたことや調べたことを記録したり、まとめたりしたカードや作文例が示されるとともに、新聞、ポスター、紙芝居、ペープサート、劇など多様な発表形式などを示すなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出		第1, 2学年	生活・123 生活・124
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等					<p>○ 学校、家庭及び地域の生活に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で見付けたことを伝えたり、町探検をマップにまとめたりする活動を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える活動</li> </ul> <p>○ 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花を育てて観察したり、動くおもちゃを製作したりする活動を通して、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくする活動</li> </ul> <p>○ 自分自身の生活や成長に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の仕事に挑戦したり、2年間の自分の成長をカードにまとめたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようになる活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようになるため、単元を「わくわくスイッチ」、「はっけんロード」と「はてな」、「ぐんぐんはしご」で構成して、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考える活動</li> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようになるため、「ヒント」を活用して「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行う活動</li> </ul>
内容の構成・排列、分量等					<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はってん」コラムと特設ページを設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については、16の単元で構成され、総ページ数は260ページで、前回より約6%減となっている。(判型はA4判)</p>
使用上の配慮等					<p>○ 単元導入の「わくわくスイッチ」で動機付けしたり(全学年)、日本各地の慣習や行事に目を向ける資料を豊富に掲載したり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 小単元「サイコロ」で、「めあて」を掲載したり(全学年)、単元末に「なにをかんだかな」を掲載したり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 児童が読みやすい正しい字形や文字の大きさに配慮してユニバーサルフォントを使用したり(全学年)、読み取りやすいカラーユニバーサルデザインに配慮したり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、動画やデジタル図鑑などのコンテンツを活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</p>

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「きせつとなかよしふゆ」で雪や氷を使った遊びや児童の様子（札幌市）、スケートの様子（釧路市）が扱われている。また、上巻の「きせつとなかよしはる・なつ」で児童の様子及び校庭（札幌市）、下巻の「まちが大すきたんけんたい」で旭山動物園（旭川市）と「作ってためして」で札幌雪祭り（札幌市）が扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、パソコン、タブレット端末、大型モニタ、プロジェクター、スクリーン、デジタルカメラ、電子黒板、実物投影機などのICT機器の有効な活用例が示されている。また、上下巻末に設けられた「学びのポケット」では、タブレット端末、パソコン、電子黒板などの使い方やルール等が紹介されている。</li> <li>○ 幼保小連携については、上巻目次後の「はじめのいっぽ」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されるなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、下段に幼児期の総合的な学びをイラストで、上段に小学校で学習する様子を写真で掲載するなどの工夫がなされている</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、「はっけんロード」と「はてなキャラクター」により気付きを促し、気付きの質を高められるよう工夫がなされている。また、「ヒント」や上下巻末に設けられた「学びのポケット」において、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動や思考ツールを用いた考えの整理の仕方が示されている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、生活科カード、新聞、ポスター、地図、手紙など多様な表現方法が示されている。また、下巻末に設けられた「学びのポケット」において、クイズ、紙芝居、ペープサート、動作化などの様々な表現方法を示したり、ICT機器を活用した発表の仕方を示したりするなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	



観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	38・光村	第1, 2学年	生活・127 生活・128	せいかつたんけんたい上はじめてが いっぱい せいかつたんけんたい下はっけん だいすき	<p>○ 学校、家庭及び地域の生活に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を探検して見つけたことを伝えたり、町の施設やお店を調べ、伝えたりする活動を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える活動</li> </ul> <p>○ 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花を育てて観察したり、動くおもちゃを製作したりする活動を通して、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくする活動</li> </ul> <p>○ 自分自身の生活や成長に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が笑顔になることをしたり、自分の成長の様子をまとめたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするようにするため、単元を「導入」、「展開」、「振り返り」で構成して、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考える活動</li> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするようにするため、「ひろがるせいかつじてん」を活用して「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行う活動</li> </ul>
内容の構成・ 排列、 分量等					<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年への期待を高めるコーナーを設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> <p>○ 内容の分量については、18の単元で構成され、総ページ数は264ページで、前回より約2%増となっている。(判型はA4判)</p>
使用上の 配慮等					<p>○ 表情・身振りなどから、楽しさ・真剣さが伝わる写真を掲載したり(全学年)、日本各地の伝統・文化や季節の行事などを随所で紹介したり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 単元扉に学習対象と児童の写真、問いかけを位置付けたり(全学年)、小単元に「ふりかえろう」を位置付けたり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 読みやすさを強調して作られたユニバーサルデザイン書体を使用したり(全学年)、カラーユニバーサルデザインの観点から、専門家の校閲を受けたり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、画像や動画のコンテンツを活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</p>

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「ふゆともだち」で雪や氷を使った遊びや児童の様子（札幌市）、スノーキャンドル（旭川市）が扱われている。また、上巻の「みんなのこここ大きくせん」で旭山動物園（旭川市）、下巻「みんなにつたえようすてきなまち」で札幌雪祭り（札幌市）が扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、タブレット端末、大型モニタ、デジタルカメラなどのICT機器の有効な活用例が示されている。また、別冊資料の「ひろがるせいかつじてん」では、タブレット端末、デジタルカメラなどの使い方や留意点が紹介されている。</li> <li>○ 幼保小連携については、目次後の「いちねんせいのはじまるよ」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されるなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、幼児期の教育との円滑な接続に向け「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されている主な例をイラストと写真、保護者向けメッセージで示す工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、学び方のヒントにおいて、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の多様な学習活動が示されている。また、別冊資料の「ひろがるせいかつじてん」を設け、児童の興味・関心に応じて資料を参照することにより、自ら適切な学習方法を見付けることができるよう工夫がなされている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、学び方のヒントにおいて、相手や目的に応じた多様な交流・表現の方法が示されている。また、別冊資料の「ひろがるせいかつじてん」を設け、新聞、ポスター、パンフレット、絵本、巻物などの様々な表現方法を示したり、ICT機器を活用した発表の仕方を示したりするなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		61・啓林館	第1, 2学年	生活・129 生活・130	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校、家庭及び地域の生活に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で見付けたことを伝えたり、町の施設や人を調べ、伝えたりする活動を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える活動</li> </ul> </li> <li>○ 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・花を育てて観察したり、おもちゃを製作したりする活動を通して、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくする活動</li> </ul> </li> <li>○ 自分自身の生活や成長に関する内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできることに挑戦したり、自分の成長をまとめ、伝えたりする活動を通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする活動</li> </ul> </li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、単元を「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階で構成して、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考える活動</li> <li>・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、学びのキーワードを活用して「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行う活動</li> </ul> </li> </ul>				
内容の構成・排列、分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「3年生へのステップブック」の資料単元を設け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> </ul> </li> <li>○ 内容の分量については、18の単元で構成され、総ページ数は286ページで、前回より約1%減となっている。(判型はA B判)</li> </ul>				
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元導入に「わくわくたいむ」を掲載したり(全学年)、児童が親しみやすい学習活動や学習対象、学習材を取り上げたり(全学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○ 次の活動に向けた「めくり言葉」を位置付けたり(全学年)、「できるかなできたかな？」コーナーを掲載したり(全学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</li> <li>○ 視認性と可読性を高めるユニバーサルデザインフォントを使用したり(全学年)、色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインを用いたり(全学年)するとともに、二次元コードを掲載し、動画などのコンテンツやデジタル図鑑を活用できるようにする(全学年)など、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>				

<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、上巻の「ふゆとなかよし」で雪や氷を使った遊びや氷の結晶、苫小牧スケート祭り、氷のお面（帯広市）が扱われている。また、上巻の「なつとなかよし」で函館港祭り、下巻の「とび出せ！町のたんけんたい」で苫小牧市立中央図書館（苫小牧市）、「びっくりずかん」で札幌雪祭り（札幌市）、「がくしゅうずかん」で路面電車（函館市）が扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、タブレット端末、大型モニタ、デジタルカメラなどのICT機器の有効な活用例が示されている。また、上下巻末に設けられた「がくしゅうずかん」では、タブレット端末の使い方や留意点が紹介されている。</li> <li>○ 幼保小連携については、上巻目次後の「がっこうだいすきいちねんせい」において、入学当初に生活科で行われる具体的な活動例が示されるなど、スタートカリキュラムの編成に配慮がなされている。また、幼児期の教育との円滑な接続に向け「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されている主な例を写真と保護者向けメッセージで示す工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市児童の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考える力を育むことができるよう、紙面の随所に学びのキーワードとして、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の多様な学習活動例が示されている。また、上下巻末の「がくしゅうずかん」には、活動や観察などにおいて、考えを深めるヒントをまとめて掲載するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 多様な方法を使って気付いたことを表現したり、相手や目的に応じた伝え方を選んだりできる力を育むことができるよう、随所に、活動を振り返り、気付きを多様な方法で表現する例が示されている。また、上下巻末に設けられた「がくしゅうずかん」において、新聞、紙芝居、パンフレット、クイズなどの他、ICT機器を活用し、写真や動画を用いた表現活動を示したりするなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	